

1 全体目標 主体的に学び、豊かに表現する力を身につけた幼児・児童・生徒の育成
～「問い」が生まれる授業の実践を通して～

2 取組の方針

- (1) 「確かな学力」を重点に、「豊かな心」、「健やかな体」に係る事項について取組を充実させ、幼児・児童・生徒の「生きる力」を育む。
- (2) 県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡを踏まえ、「自己肯定感の高まり」「学び・育ちの実感」「組織的な関わり」に基づき、「学びの質を高める授業改善」を推進する。
- (3) 児童・生徒の発達段階に応じた指導を充実させ、各学年で身につけさせるべき基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させる。
- (4) 学力向上マネジメントによる「目標管理型評価システム」を構築し、学力向上に係る学校課題の解決を図る取組を推進する。
- (5) 学校・家庭・地域が連携・協力して日常的な取組の充実を図る。

3 取組内容

【確かな学力の向上】

(1) 主体的・対話的で深い学びを重視した「確かな学力」の向上

- ① 「めざす授業像」「めざす子どもの姿」の共有と一貫した指導体制の確立
- ② 「問い」が生まれる授業を目指し、対話を充実させ、深い学びにつなげる授業づくりの推進
- ③ ペア学習やグループ学習など、児童・生徒の実態に応じた授業形態の工夫
- ④ 地域教育資源を生かした体験的な学習の推進

(2) 校内研修と連動した組織的な授業改善の推進

- ① 児童・生徒の実態を把握し、カリキュラム・マネジメントを意識した教材研究の充実
- ② マハナっ子タイム、マハナっ子月間等、個に応じた補習指導の充実
- ③ 全国学力学習状況調査等、各種学力調査の分析を生かした授業改善
- ④ 管理職による日常的な授業参観によるフィードバック
- ⑤ 主事招聘授業や「勤勉進取の会」、ローテーション道德による授業力の向上

(3) 学習を支える力の育成

- ① 「粟国小中授業スタンダード」「学習の約束」の共通実践による学習環境の整備
- ② 朝の読書や学校図書館を活用した読書活動の充実
- ③ 授業と連動した宿題の工夫及び、家庭と連携した家庭学習の習慣化
- ④ 教育行政（村教育委員会）との連携による漢字検定、英語検定、数学（算数）検定の奨励

(4) 学力向上マネジメントによる「目標管理型評価システム」の構築

- ① 学力向上に係る学校課題や学校目標の共通認識の徹底
- ② PDCAサイクルにおけるC（評価）・A（改善）の取組の強化
- ③ 指導と評価の一体化による学習内容の構成や指導方法の改善
- ④ 児童生徒に身に付けさせたい資質能力の明確化と共通認識の徹底

【豊かな心】

(1) 人間関係づくりの力を育む取組の充実

- ① 場に応じた、適切な言葉遣いの徹底指導
- ② いつでも、どこでも、誰にでも進んであいさつできる指導の工夫
- ③ 幼稚園、小学校、中学校の校種間による幼児・児童・生徒の交流
- ④ 日常生活や体験的な活動で得たことを道德の時間に生かす、道德教育の充実

(2) 人権・平和・道德教育の充実と勤労活動による、思いやりの心と勤労精神の育成

- ① 人権・平和教育を中心にした「いじめ防止・平和を愛する心」の育成
- ② 教育活動全体を通じた道德教育の推進と特別活動の充実
- ③ 自己肯定感を高め、思いやりの心を育てる指導の工夫
- ④ 児童・生徒の縦割り班による環境美化の推進

【健やかな体】

(1) 学校・家庭・地域が連携した基本的生活習慣の確立と健康（運動）を愛する心の育成

- ①健康安全教育と食育の計画的、継続的な指導の共通実践
- ②児童生徒の個に応じた体育や部活動等の計画的な指導の共通実践
- ③学校・家庭・地域がそれぞれの役割を担って推進する基本的生活習慣の確立
- ④部活動や外遊び等による体力づくりの推進

4 今年度の重点取組 「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業改善

(1) 取組の方針

- ①児童生徒が主体的に問いを持ち、対話を通して解決に向かう「主体的・対話的で深い学び」の視点に沿った授業を推進する。
- ②ローテーション道徳や「勤勉進取の会」を計画・実践することで、互いの授業を参観し合い、教師一人一人の授業力の向上を図る。

(2) 小学部における重点取組

- ①「互見授業」による授業改善と指導力の向上
【内容】 ○ローテーション道徳や「勤勉進取の会」において互見授業を積極的に行い、互いに授業を参観し合う環境を整え、授業力の向上を図る。
- ②授業と連動した家庭学習の習慣化と「質」の向上
【内容】 ○保護者と連携し、丸付けや確認のサイン・コメント等で児童の学習状況を把握し、学ぶ意欲を高める。
○「家庭学習の手引き」を活用し、自主学習を推進する。
- ③基本的な生活習慣の形成
【内容】 ○早起きから始まる、「早寝・早起き・朝ご飯」の定着。
○縄跳び運動や外遊びを奨励し、健やかな体の育成を図る。

(3) 中学部における重点取組

- ①「ローテーション道徳」による組織的な教材研究の推進
【内容】 ○道徳の授業を中学部全職員ローテーションで行うことで、充実した教材づくりと授業力の向上に努める。
- ②身に付けさせる力の育成
【内容】 ○粟国スタンダードを基にした授業計画・板書計画
(※生徒一人一人の実態や目線に立って様々な反応を熟考)
○課題解決に向かい「問い」が生まれる授業を目指し、学ぶ意義（ねらい）・身に付けさせたい力（まとめ）の明確化。
- ③授業と連動した課題の設定
【内容】 ○教科担任が、授業と連動した宿題を提示し、基礎的・基本的な学習の定着を図る。
○生徒が主体的に家庭学習に取り組めるよう、課題の工夫を行う。

5 年間計画 学推・校内研修

月 日	内 容	P D C A	備 考
年 間	マハナッ子タイム（小学部）、日常的な補習指導の実施	P・D	小・中
4月4日（月）	学推・研究推進委員会① 第1回校内研修（4/5）に向けて（校内研修計画） ※今後の流れの確認と検討 ○内容・時間・場所・講師等の確認	P	小中研主 校長室
4月5日（火）	・学力向上推進計画の確認（職員会議、小中部会） ・第1回 校内研修会 「令和4年度 校内研修計画」 （主題・主題設定の理由・仮説・方針・内容・構想図・組織・年間計画などの読み合わせ確認） ○副題についての説明 ○主事招聘授業について	P	全体会 研究主任 （職員室）
4月11日（月） ～15日（金）	マハナッ子旬間（全国学力・学習状況調査に向けて） 小学6年生・中学生全体を対象	P・D C	小6年 中学生
4月13日（水）	学推・研究推進委員会② 第2回校内研修（4/20）に向けて ○内容・時間・場所・実施方法等の確認	P	研究主任 （校長室）
4月18日（月）	標準学力検査（中1～中2）	D・C	中
4月19日（火）	・標準学力検査（小2、小5、中1～中2） ・全国学力・学習状況調査（小6・中3） ・知能検査（小2、小5、中1）	D・C	小・中
4月20日（水）	第2回 校内研修会 「「問い」が生まれる授業のポイント」（仮題） ～「問い」が生まれる授業サポートガイドの活用～	P・D	研究主任 （職員室）
5月6日（金）	学推・研究推進委員会③ 第3回校内研修（5/11）に向けて（心肺蘇生・AED） ○内容・時間・場所・講師等の確認	P	研究主任 （校長室）
5月18日（水）	第3回 校内研修会 「心肺蘇生法、AEDとエピペンの利用方」 講師 診療所医師（ ）	P・D C	養護教諭 研究主任 （1階廊下）
5～6月頃	地域懇談会の開催（村教育委員会） ○学力向上推進計画の説明	P・D	各支部合同
6月1日（水）	第1回勤勉進取の会 講師 文教大学教育学部 准教授 【石井 努先生】	D・C	授業改善 研究部
6月 日（ ）	県学力調査（学びの確かめ）の実施《※結果分析・考察》	D・C	小中部会
6月14日（火） 放課後	学推・研究推進委員会④ 第4回校内研修（6/22）に向けて ○内容・時間・場所・講師等の確認	P	研究主任 （校長室）
6月22日（水）	第4回 校内研修会 「ICTの授業活用」（仮題）	P・D C	研究主任 情報担当

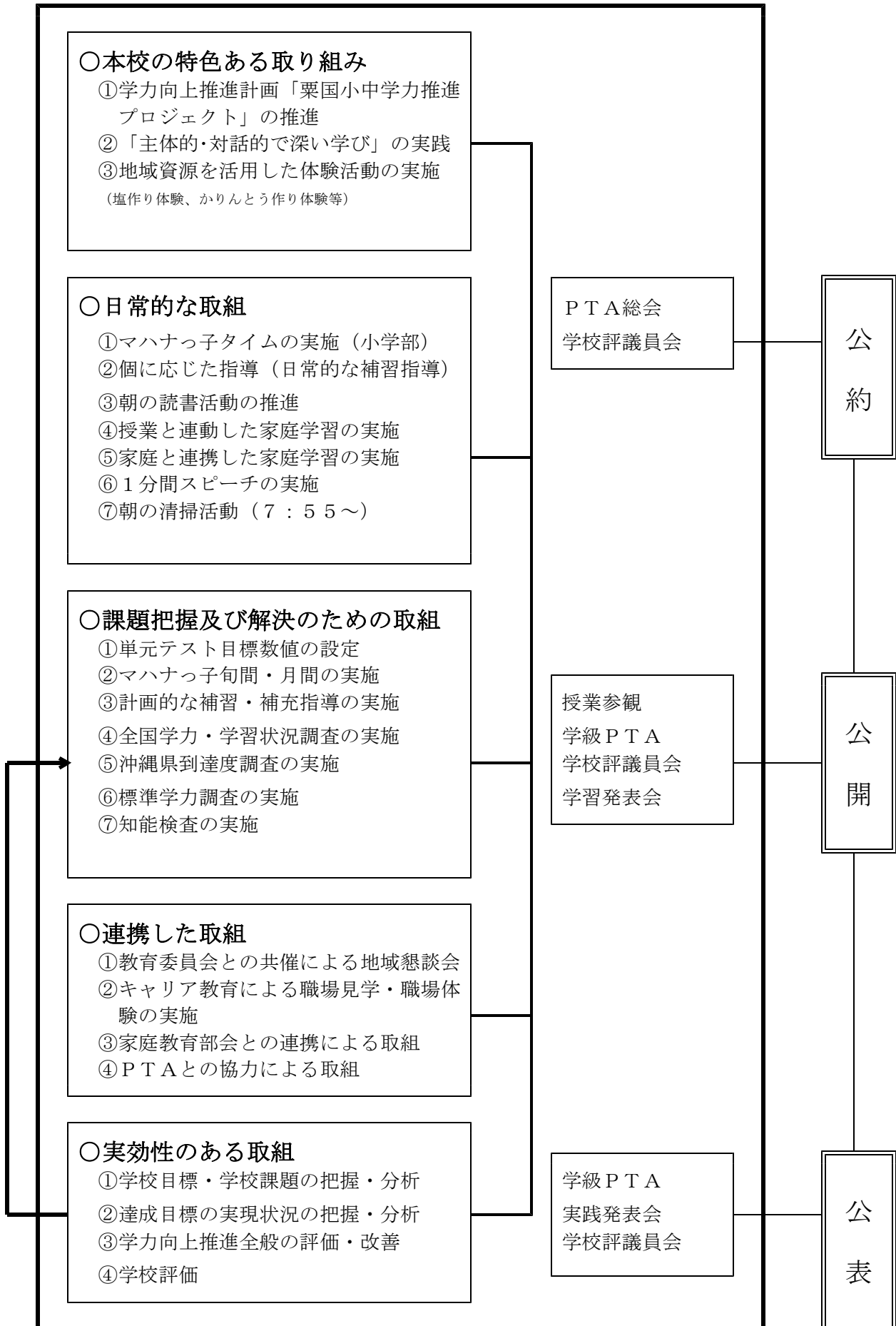
7月 職員会議	全国学力・学習状況調査の分析・考察の報告 《※分析を基に授業改善を図る》	C・A P	全体会 小中部会
7月	第1回学校アンケート（保護者・児童・職員）の実施 《※アンケートの集計・分析・考察》	C A	企画会
8月26日（金）	学推・研究推進委員会⑤ 第5回校内研修（9/7）に向けて ○内容・時間・場所・発表方法について確認	P	研究主任 （校長室）
9月7日（水）	・第2回勤勉進取の会 講師 文教大学教育学部 准教授 【石井 努先生】 ・第5回 校内研修会（勤勉進取の会とのタイアップ） 「問い」が生まれる授業についての指導案作り・授業検討 講師 文教大学教育学部 准教授 【石井 努先生】	D・C D・C	授業改善 研究部 研究主任 （音楽室）
9月29日（木） 放課後	学推・研究推進委員会⑥ 第6・7回校内研修に向けて ○一人一授業の進捗状況の確認 ○主事招聘授業の計画について	P	小中研主
通年	第6回 校内研修会 「一人一授業の計画・実施・まとめ」 ○「問い」が生まれる授業をテーマに管理職または石井先生等の参観を含む互見授業を行う。 ○授業指導案を作成し、授業を行っての成果と課題をまとめる。（勤勉進取の会とのタイアップも可） （研究集録にまとめる。）	P・D C・A	小中研主
9月～11月	学推・研究推進委員会⑦ 主事招聘全体授業について（授業内容の決定・申請） ○内容・時間・場所・発表方法について確認	P	研究主任 （校長室）
9月～11月	第7回 校内研修会 「主事招聘全体授業・授業検討会全体会」 ○小中各1名ずつ教科・内容を絞って公開授業を行う。（2日間）その後全体会を持ち授業検討を行う	D・C A	研究主任 小中担任 （音楽室）
11月	第2回学校アンケート（保護者・児童・職員）の実施 《※アンケートの集計・分析・考察》	C A	企画会
11月30日（水）	学推・研究推進委員会⑧ 第8回校内研修（12/14）に向けて ○内容・時間・場所・発表方法について確認	P	研究主任 （校長室）
12月14日（水）	第8回 校内研修会 「「問い」が生まれる授業についての実践発表・研究」 （ワークショップ型研究） ○今年度実践を重ねてきた「問い」が生まれる授業について成果・課題を出し合い、今後の実践に生かせる様、グループ討議を行う。	D・C A	研究主任 小中職員 （音楽室）
1月 日（ ） 職員会議	学校アンケートの分析・考察の報告 ○調査結果に基づき、課題解決の手立てを話し合う	C・A P	全体会 小中部
1月23日（月） ～2月13日（月）	マハナツ子月間（学力向上強化月間の展開） ○到達度に向けての対策	P・D C・A	各学年 小中部会
2月 日（ ）	県学力調査（学びの確かめ）の実施《※結果分析・考察》	D・C	小中部会

2月 日 ()	栗国村学力向上推進実践発表会 (村教育委員会)	C・A	職員・地域
2月8日 (水)	学推・研究推進委員会⑨ 第9回校内研修 (2/22) に向けて (次年度計画確認)	P	研究主任 (校長室)
2月14日 (火)	沖縄県到達度調査 (小) 《※結果分析・考察》	D・C	小学部会
2月15日 (水)	沖縄県到達度調査 (中1・2) 《※結果分析・考察》	D・C	中学部会
2月22日 (水)	第9回 校内研修会 「次年度計画の確認」(アンケート集計結果をもとに) ○主題、仮説、方針、内容、想像図、各語句の捉え方、 組織図、年間計画などについて	C・A P	研究主任 (職員室)
2月 日 ()	○島尻地区学力向上推進実践発表会 (*紙面のみの提出)	C・A	学推担当
2月 日 ()	○令和5年度学力向上推進計画の提案	P	全体会

注意1 : 校内研修は全職員参加です。

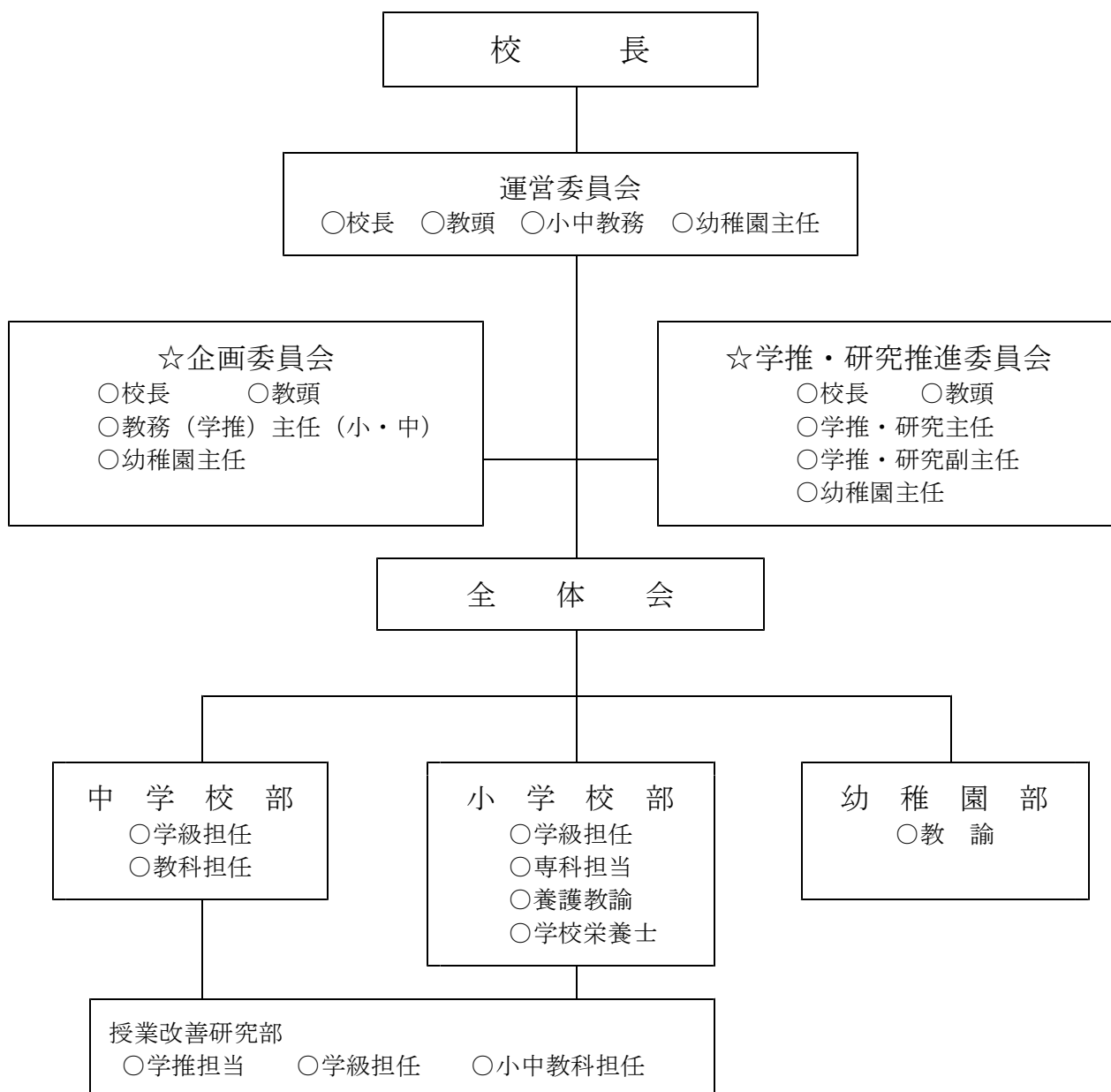
2 : 学推・研究推進委員会は関係職員のみ参加です。

6 推進の視点に立った具体的な取組の全体構想



7 推進体制

(1) 校内組織図



(2) 各組織の役割

運営委員会	学校運営並びに、教育指導上の諸問題について研究協議し、重要事項について職員会議等に提案する。 校長が招集し、司会は教務主任が行う
企画委員会	学力向上推進計画の展開等の検討、調整、運営委員会からの提案など、教務主任は、話し合われたことを各部会で周知する。 司会は教務主任が行う
学推・研究推進委員会	学力向上推進及び研究推進計画の策定、展開、評価、改善策、実態調査 報告会の計画
各学年部会	幼稚園、小学校、中学校の取組計画、実践、実践調査

8 具体的な取組

(1) 確かな学力の向上

具 体 的 な 取 組	<p>1 県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡの推進</p> <p>2 主体的・対話的で深い学びを重視した「確かな学力」の向上 (1) 「粟国小中授業スタンダード」を活用し、一貫した指導体制の確立を図る。 (2) 主体的に課題に取組み、「対話」や「協働」を通して解決に向かう授業づくりを推進する。 (3) 地域人材、地域資源を生かした体験的な学習を推進し、児童生徒の学ぶ意欲を高める。 (4) 少人数を意識した、「主体的・対話的」な授業展開の工夫。(ペア学習・グループ学習等)</p> <p>3 校内研修と連動した組織的な授業改善の推進 (1) 主事招聘授業や「勤勉進取の会」による積極的な授業改善の推進 ①ローテーション道徳や互見授業を通して、授業力の向上を図る。 ②学力調査結果の分析や教材研究を通して、日々の授業改善に努める。 ③校内研修と連動し、「主体的・対話的」な授業づくりを目指す。 (2) マハナっ子旬間・月間の実施 ①学力向上強化旬間として4月初旬、小6、中3を中心に実施する。(担外も配置) ②学力向上強化月間として1月後半～2月前半を設定、全校体制で取り組み、基礎的基本的な学習の定着とそれらを応用した活用力を育む。(担外も配置) (3) 日常的な補習・補充の実施 ①単元テストで目標の点数に達成できなかった児童生徒は、治療指導、再テストを行い、当該学年の学力の定着を図る。(低学年9割、中学年8割、高学年8割)(中学生6割) ②授業の量と質を確保するために、日常的な取り組みとして、放課後の補習・補充指導を適宜、学校全体で設定して取り組む。 ③小・中春休みは、次年度へのたすきとして、国語・算数などの宿題を与える。また、新年度には春休みの宿題を解答する。(小6、中3)は重点的に実施する。</p> <p>4 学習を支える力の育成 (1) 学習規律や授業の進め方等、全職員の共通実践による学習環境を整備する。 *授業スタンダード・学習スタンダード、教室掲示等、粟国小中「揃える実践」の推進 (2) 学校図書館を活用した読書活動の充実 ①朝の15分間の読書活動 【年間読書冊数】 小学1・2年生(160冊)、3・4年生(100冊)、5・6年生(90冊) 中学生 全学年(40冊) ②「ファミリー読書の日」の推進を通して、読書活動の習慣化を図る。 (3) 授業と連動した宿題の工夫及び、家庭と連携した家庭学習の習慣化 【頑張りノート年間目標冊数・目標時間】 小学校(10冊:ただし小1は7冊)、中学校(7冊) *自主学習を奨励し、冊数だけではなく、学習時間や学習の「質」の向上も意識させる。 (4) 教育行政(村教委)との連携 ①漢字検定、英語検定、数学(算数)検定の奨励し、当該学年の学習の定着を図る。 ②村主催の学習塾、海外ホームステイ体験を活用し、進学への意欲を高める。</p> <p>5 思考力・判断力・表現力の育成 (1) 各教科の学習で習得した知識・技能を活用する学習活動の充実。 (2) 全国学力・学習状況調査や到達度調査等、各種調査結果を分析し、授業改善を図る。 (3) 昼食時間に全児童生徒が輪番制で1分間スピーチを行い、児童生徒の思考力や表現力を育む。(一人、年に2回以上を設定)</p> <p>6 学力向上マネジメントによる「目標管理型評価システム」の推進 ①PDCAサイクルの効果的な実践と定期的な取組の見直し(各部会) ②指導と評価の一体化を図り、学習内容の構成や指導方法を改善</p>
----------------------------	---

(2) 豊かな心の育成

具 体 的 な 取 組	<p>1 人権・平和教育を中心にした「いじめ防止・平和を愛する心の育成」</p> <p>(1) 定期的な「いじめ等アンケート」の実施や朝会で「いじめ追放宣言」集会を実施することで、いじめや差別は許さない環境を作る</p> <p>(2) 平和週間を設定したり、外部人材や資料を活用した平和教育の充実を図り、平和を愛する心情を育てる。</p> <p>2 教育活動全体を通じた道徳教育の推進と特別活動の充実を図り、自己肯定感を高め、思いやりの心を育む。</p> <p>(1) 道徳の時間を要とした教育活動全体を通じた道徳教育が実践できるよう、指導計画の改善と研修を深める</p> <p>(2) 道徳教育や特別活動等で自己肯定感を高め、他者と協力し、目標に向かって粘り強く努力する態度を育てる。</p> <p>(3) 教育活動を通してあいさつや返事などの基本的マナーや規範意識を小中一貫した指導で身につけさせる。</p> <p>(4) 老人ホームの慰問・交流を通して、高齢者への尊敬の気持ちを育む</p> <p>3 一人一人が見通しと意欲を持って取り組む環境美化・勤労生産活動の推進</p> <p>(1) 児童・生徒の縦割り班による環境美化活動を推進し、異学年の交流を深める。</p> <p>(2) 年間を通じた栽培計画を児童生徒職員が共有し、各自の分担を明確にすることで、責任感、達成感を高める。</p> <p>(3) 玉ねぎやじゃがいも等の農業体験を通して、勤労する大切さや生産する喜びを理解する。</p>
----------------------------	---

(3) 健やかな体の育成

具 体 的 な 取 組	<p>1 健康安全教育と食育の計画的、継続的な指導の共通理解と共通実践</p> <p>(1) 食育を全学年で1回以上計画的に実践したり、給食指導により、好き嫌いをなくし、食に関する関心を高める。</p> <p>(2) 全職員が共通理解のもと、保健・安全指導を日常的に行い、児童生徒の危機回避能力を高める</p> <p>(3) 交通安全教室、避難訓練（火災、地震・津波、不審者）、薬物乱用防止教室（サイバー犯罪被害防止教室）の実施</p> <p>2 児童・生徒の個に応じた体育や部活動等の計画的な指導の共通理解と共通実践</p> <p>(1) 体力テストなどの資料をもとに個に応じた体育指導（縄跳び）を行うことで、技能を高めスポーツに親しむ態度を養う</p> <p>(2) 部活動や陸上競技大会等の練習は計画的に実施し、児童生徒の向上心と達成感を高める。</p> <p>3 学校・家庭・地域がそれぞれの役割を担って推進する基本的な生活習慣の確立</p> <p>(1) 徒歩登校、休み時間の外遊び、縄跳び等の日常の活動を体力向上の機会として推進する</p> <p>(2) 学校は学習規律、家庭は「早寝早起き朝ごはん」等の生活リズムを徹底することで基本的な生活習慣の確立を図る。</p>
----------------------------	--

9 本校における特色ある学力向上推進

(1) 年間を通したマハナっ子タイムや日常的な補習指導の実施

①ねらい 児童生徒一人一人の基礎的・基本的な学習の定着を図る

②基本方針

- ・朝の補習の時間「マハナっ子タイム」(小学部)を実施し、個に応じた指導を行う。
- ・日頃の授業や家庭学習と連動した課題を設定し、担任・専科で連携して取り組む。

③実施方法

- ・毎週火曜の朝8:10～8:25までの15分間をマハナっ子タイムとし、国語、算数を中心に補習指導を行う。(小学部)
- ・個々の確かな学力を身につけるため、授業と連動した課題(問題)を実施、時間内で解答を行い、つまずきのある児童は放課後の補習指導を行う。

(2) マハナっ子旬間・月間の実施

①ねらい 全国学力学習状況調査や到達度調査及び基礎学力向上に向けて、全校体制で実施することにより、児童生徒の学習の定着を図り、わかる喜びから学習意欲を高める。

②実施期間： 4月初旬(マハナっ子旬間) / 1月後半～2月中旬(マハナっ子月間)

③実施方法

【小学部】

- ・6年生を対象に、マハナっ子タイムや放課後に全国学力学習状況調査の過去問題や到達度テストの過去問題を活用し、取り組む。

【4月初旬】

- ・3～6年生を対象に、マハナっ子タイムや放課後に到達度テストや学びのたしかめの過去問題等、活用問題を取り入れる。

【1月下旬～2月中旬】

【中学部】

- ・中学3年生の全国学力学習状況調査に合わせ、全学年で放課後の補習を行い、全国学力学習状況調査の過去問題や到達度テストの過去問題集を活用し取り組む。

【4月初旬】

- ・1,2年生を対象に、全国学力テストや到達度テストの過去問、学力向上Webテストを活用し、取り組む。

- ・中学3年は、学力向上Webテストや高校入試対策問題を活用し、学習のまとめを行う。

【1月下旬～2月中旬】

(3) 読書タイムの実施

①ねらい 日常的に読書活動の時間を確保することで、読書に親しみ、読書活動の定着を図る。

②実施方法

- ・朝の15分間(8:10～8:25)を読書の時間として実施する。ただし、金曜日の朝は、地域ボランティアによる読み聞かせが入る学級もある。
- ・担任、教科担任も一緒に読書に取り組む。
- ・読書タイムで読む本は、図書館で借りた本とする。(学習マンガやマンガは除く)

(4) 家庭学習の充実を図る取組

①ねらい 授業と連動した宿題(課題)を設定し、基礎的・基本的な学習の定着を図る。

②基本方針

- ・家庭学習の充実を図るため児童生徒に家庭学習の重要性を指導する。
(小学校は家庭学習の手引きを家庭訪問で配布)
- ・学習した内容が復習できるように、授業と連動した宿題を出すようにする。
- ・がんばりノート年間目標冊数や学習時間を意識させ、児童生徒が目標を達成できるように、定期的ががんばりノートを点検し、フィードバックする。
(小学生10冊、ただし、小1は7冊 中学校7冊)
(目標時間：小学生 学年×15分 中学生：90分以上)
- ・丸付けやコメント等、家庭との連携を密にし、家庭学習の定着を図る。

粟国小中 授業スタンダード

めざす授業像 他者と関わりながら、課題の解決に向かい、「問い」が生まれる授業

過程		学習活動	指導のポイント
導入 何を学ぶか	①つかむ	◎身に付けさせたい力を踏まえた「めあて」の設定・提示 →学習課題・学習のめあてをつかむ。 →既習事項や前時と「どこが」「どのように」違うのか気付く。	○児童・生徒の「問い」を引き出す課題の提示 ○児童・生徒の「問い」を生かした「めあて(目標)」の設定 ・前時の想起 ・既習事項との比較
展開 どのように学ぶか	主体的学び ②見通す	◎課題解決に必要な情報の取り出し →文章・グラフ等の多様な情報を読み取る。 →予測する。解決の方法や見通しをもつ。	○見通しをもち、めざすゴール(評価規準)をイメージさせる ・考える視点の明示、時間の確保 ・考えをもたせる手立ての工夫
	③考える	◎一人でじっくり考える場の設定 →自分の考えをもつ。 →既習事項を生かし考えようとする。	○学習のねらいに迫る意図的・計画的な発問 ○思考を広げ、深める発問の工夫
	対話的学び ④深める	◎学習のねらいの達成に向けた交流場面の設定(考えを「伝え」「比べ」「深める」) →自分の考えを比べながら、友達の考えを聞く。 →友達の考えを比べながら自分の考えを伝える。 →多様な意見や考えを整理・分類し、まとめる	○ペア・グループでの交流を通して、自分の考えを深める ・話合いの視点の明確化 ・ペアからグループ、全体へとつなげるコーディネート
終末 何がわかるようになったか	深い学び ⑤まとめる	◎「めあて」に正対した「まとめ」「振り返り」 →学習課題・学習のめあてに沿って、自分の言葉で振り返る →自分の達成度・理解度を判断する。 →学んだことを生かしたり、新たな疑問を見付けたりする。	○評価規準に基づく評価場面の設定と確実な評価の実施 ○次時につながる振り返り ・視点を与える ・次時への意欲付け ○学びの過程を振り返り、新たな「問い」をもたせる。

学習を支える力の育成(学習規律の確立・規範意識の向上・家庭学習の習慣化・読書活動の充実・生活リズムの形成・家庭との連携)



授業と連動した家庭学習(課題)の充実